

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : カスカディア・コミュニティ大学

留学期間 : 平成 27 年 3 月 7 日 ~ 平成 28 年 1 月 8 日

私は、私の通っている学校のプログラムである留学に参加し、シアトルで 10 ヶ月間 37 人の仲間と共に過ごしました。小学生からの夢だったということ、留学を体験された先輩方全員が最高だったと仰っていたということもあり、いろいろなことを吸収し充実した日々への期待でいっぱいでした。私の 10 ヶ月間の目標は、ホストファミリーやルームメイトと会話をたくさんする、TOEIC のスコアを 800 点以上取得する、インターンシップをする、でした。想像していた通り、アメリカでの生活は新しい経験ばかりで、毎日が本当に楽しかったです。しかし、楽しいことだけでなく中には大変なこともたくさんありました。

まず初めに大変だったことは、ホストファミリーとのコミュニケーションです。私のホストはファザー、マザー、シスター、そして中国人のルームメイトでした。1 階と 2 階で生活スペースが分かれていたため、ディナーだけ 1 階に降りてみんなで食事をするという生活でした。初めのころは 1 階のリビングでホストと一緒にテレビを見たり、スーパーに一緒に行ったりしていましたが、ホストも彼ら自身の部屋で過ごすことが多かったため、私も自分の部屋で過ごすことが多くなりました。日本ではいつも家族みんなで過ごす生活だったので 1 人に慣れることがなかなかできず、親にテレビ電話をしたり、ホームシックの日々が続きました。しかし、会話力に自信がついてきたころから、ディナーの時に学校や友達の話をしたり、お互いディズニーが好きだったので、ディズニーの話をしたりたくさん会話できるようになり、ホームシックもなくなりました。日本ではこうだったから、といって自分の理想を押し付けるのではなく、相手の生活に合わせるように生活することの難しさをホストと過ごすことによって体験できましたし、些細なことでもいいから自分から話しかけることで親しくなれたり自分の会話力も伸びる、ということを知ることができました。

次に大変だったことは、勉強です。私のクラスは他国からの留学生と共に英語を学んでいくことを目的としたクラスで、初めはディスカッションやプレゼンテーション、エッセイなど慣れないことだらけで授業についていくので精一杯でした。しかし、中国やサウジアラビアのクラスメイトはとても優しく、「自信持って頑張れ」といつも励ましてくれ、分からなかったら私が分かるまで教えてくれました。私のプレゼンテーションが終わったら、「すごい分かりやすかった」「よくやったね」と声をかけてくれました。そのおかげで、作業は大変だったものの、人前で発表することに苦痛をあまり感じなくなったり、英語ですらすらと文章が書けるようになりました。また、異文化の生徒と接することで、日本では全く知らなかったイスラム教のことや、中国の文化についても学ぶことができ、国際的に視野を広めることもできました。目標であった TOEIC を 800 点以上取得することは達成できませんでしたが、それ以上に英語以外のことも学ぶことができ非常に価値のある授業だったと私は感じています。

もう一つ大変だったことは、交通事故です。夏休みを利用して日系の旅行会社にラスベガスで 1 か月間研修することになり、予約確認の電話をしたり様々な体験をしました。研修 5 日目に車での交通事故に

遭い救急車で運ばれましたが、幸いにもむち打ちで済みました。しかし、症状を伝えたり医者への指示を聞くのはとても難しく、ジェスチャーでなんとか通じるといった状態でした。首が痛いのに、保険の手続きなどややこしいことばかりで、この先留学を続けられるのか不安でいっぱいでした。しかし、親や友達が励ましの言葉を掛けてくれたり、ある友達は泣きながら「生きててよかった」と言ってくれ、ネガティブに捉えずに、これも私に与えられた試練なんだ、と思って最後まで留学生活を送ろうと思うことができました。この経験から、アメリカの医療費が想像以上に高額であるのを知ることができましたし、一人で立ち向かう勇気と精神力を身に付けることができました。今となっては、素晴らしい経験ができてよかったと思っています。

この留学を通して得た英語力、忍耐力と前向きに物事を捉えることができることを、社会に出て粘り強く何にでも対処し、先々を考えてプラスに取り組んでいくことや、2020年のオリンピックで活かせるように頑張っていきたいと思います。